

私達の班は順天堂大学天野教授にお話を伺った。限られた時間の中私達にも分かりやすく話して下さい、また、多くの質問にも答えてくださった。

私は、天皇陛下の手術のように大きなプレッシャーの中でも落ち着いて普段通りに行動できるコツを伺った。教授は『やはり沢山経験することが最も重要。自分の実力でやるしかないのだから準備をしっかりすることが自信にもつながるし、早く目的を達成することができる。』とおっしゃっていた。私は普段、期限ぎりぎりになってから焦ってやるべき事を片づけるような生活をしていたので、失敗する事も多く、特にこの言葉が心に残った。また、天野教授の著書の中に『人の3倍頑張る』『病を癒す。人を癒す。国を癒す。』という言葉があり、それらの言葉について質問があった。

『人の3倍頑張る』について天野教授は、『人の3倍良いということは人と違う視点を持てるということだ。また、人の3倍良ければ他の欠点を見えなくする事ができる。逆に、人の3倍駄目だったらその人には進む権利がないということだ。』とおっしゃっていた。人と同じくらい頑張る事の方が3倍頑張る事よりも楽し、3倍やる事は義務ではない事だからやらないという選択肢を選ぶ事もできると思う。しかし、そこでいかに自分が頑張れるのかが後に、天野教授のように、自分の力や自信につながってくるのではないかと思った。また『病を癒す。人を癒す。国を癒す。』については、『医者には病気を治すだけでは駄目で、病気だけでなくその患者さんを見て治療する必要がある。患者さんがその治療を受けて良かったと思え、希望を持てるようにしなければならない。また、1人の医者がいくら患者さんを診ても全体の患者さんを助けるにはとても足りない。1人では診きれないくらいの患者さんを助ける事ができるような研究や発見をする事が国を癒す事になる。それはなかなか出来ない事だけれども諦めない事が重要だ。』とおっしゃっていた。目的だけを見るのではなく、その目的を持っている人にも向き合う事が必要なのは医者だけではないと思う。その人に向き合って行動する事が新しい事やより良い事に繋がると思った。他にも、『より良い医者になるためにはどうしたら良いか?』『医者になるために高校生の時から続けてやる事』を伺った。より良い医者になるためには、『気付いた事を無視しない。思い立った事をすぐにやる。他人の為に行動する。時には果報は寝て待てという姿勢になる事も大事。待っていても結果があまり変わらない時は相手ともう一度話し合って双方に最も良くなるように考え直す。』とおっしゃっていた。『高校生の時からやる事・考える事は何か?』という質問には、『医学の知識を持つ事はまだ必要ない。しかし歴史書や古代の戦術の本を何度も読んで昔から伝わっている言葉の意味を知る事と、ペンや箸などの道具の持ち方を正しい持ち方に直す事は今のうちからやっておけば医者になった時にも応用できる。英語はもちろん、中国語などの第3言語やパソコン技術のマスターが必要。自分に自信とその自信の裏付け、再現性と余裕を持つように。そして、弱い人の立場に立って考えられるようになってほしい。』と答えてくださった。

私は普段自分の事に精一杯でなかなか人の立場立つということができない。より良い医者になるにはまず患者さんの立場に立てる事が大切だと分かった。患者さんの立場に立てて初めてどんな治療をしたら良いか分かるようになるのではないかと思った。

次に天野教授御自身についての質問として、『これからの医学に期待する事は何か?』『どのようにして外科医としての技術を磨いてこられたのか?』『普段患者さんに接する時に心掛けていらっしゃる事』



『年間500件の手術をし続けられる精神力はどのように身につけたのか?』などを伺った。

『これからの医学に期待する事は何か?』の質問には、『現在の医学では治せない病気を治せるようになる事。より確実に治せるようになる事。』と答えてくださった。

現在の医学では治せない病気を治せるようになる事は出来たらすごいと思うけれども、先程の『国を癒す』事のようにとても難しいと思う。しかし、それを出来るように努力するのもまた私達なので、少しでも多くの人の役に立てるように努力を重ねられる人材になりたいと思った。

『どのようにして外科医としての技術を磨いてこられたのか?』という質問には、『人より多く手術をする。手術で余った本物の血管を使って練習をする。なるべく人工のものより本物を使った方がいい。』とおっしゃっていた。

私はこの教授の言葉を聞いて正直とても驚いた。医者とはとにかく人工のものを沢山使って練習し、本物で練習するという事はあまりないのではないかと思っていたからだ。しかし、お話を伺って本物を使う事でより本番の手術に近くなって技術も上がるのだとわかり、その積み重ねが今の天野教授に繋がっているのだと思った。

『普段患者さんと接する時に心掛けていらっしゃる事』は、『相手の安全に注意し、失礼の無いようにする事。自分のやれる事をしっかりやって相手が前向きな気持ちになれるようにする事。多くの人が同じように思うように、悪い事が起こらないようにする事。もし起こってしまったらすぐに切り替えて元に戻すようにする事。』と答えてくださった。

当たり前のような感じも少ししたが、基本的な事がしっかり出来て初めて応用が出来るので基本を怠らずに行動する事が大切だと分かった。

『年間500件の手術をし続けられる精神力はどのように身につけたのか?』については、『周りをあまり気にしない事。なるべく早く目的を達成する事。いつも通りでないと感じた時は一步控え目に行動する事。これらの事が大切でうまくいけば自信にも繋がってくる。』とおっしゃっていた。

周りを気にせずに行動出来る事はやはり天野教授に自信があるという事の裏付けになると思う。自分だったら不安になって周りばかり気にして肝心な事が出来なくなってしまうだろう。周りを気にせずに行動できる自信をつける為にまず絶対に正しいと思う事からやってみようと思った。

今回の東大見学会企業大学訪問では、なかなか実際にお会いする事の出来ない天野教授にお話を伺う事が出来た。今まで考えた事の無いような事を教えて頂き、帰って来てからも多くの事を考える事が出来た。沢山の話を伺ったが、私はまず自分の出来る事を(ペンの持ち方を直すなど身近なところから)やってみようと思う。天野教授のようにはなれないかもしれないが少しでも多くの人の役に立てるようになりたいと思った。

